

令和4年度

学 力 向 上 プ ラ ン
【後期】



上尾市立大石北小学校

目 次

上尾市立大石北小学校 学力向上プラン「グランドデザイン」	1
1 学力調査結果の概要	
(1) 上尾市立小・中学校学力調査（令和3年12月実施） 【2～6年：国語、算数】	2
(2) 全国学力・学習状況調査（令和4年4月実施） 【6年：国語、算数、理科】	7
(3) 埼玉県学力・学習状況調査（令和4年5月実施） 【4～6年：国語、算数】	10
2 学力向上を図る取組	
(1) 各教科の授業における取組	11
① 国語科 学力向上プラン	
② 社会科 学力向上プラン	
③ 算数科 学力向上プラン	
④ 理 科 学力向上プラン	
⑤ 他教科の授業改善 生活科、音楽科、図画工作科、家庭科、体育科、英語活動・外国語活動・外国語科、 特別の教科 道徳	
(2) 教育活動全体を通じた取組 本校の特色ある取組 家庭教育との連携	25

上尾市立大石北小学校 学力向上プラン「グランドデザイン」

学校教育目標

心豊かでたくましい子

- やさしい子 ○明るく強い子
- かしこい子 ○すなおな子

学校課題研究主題

『自分の考えを書いて表現できる児童の育成』～論理的思考力の向上を目指して～

学力・学習状況調査の結果

R4 全国学力・学習状況調査	R4 埼玉県学力・学習状況調査	R3 上尾市立小・中学校学力調査
<ul style="list-style-type: none"> ・国語、理科の平均正答率は全国平均を2～3%上回り、算数では1%程度下回っている。 ・国語の言葉の働きに関する知識・技能を問う問題の正答率が低い。 ・算数では、数量の関係を捉えて自分の考えを記述する問題の正答率が特に低い傾向にある。 ・理科では、エネルギーや状態変化の問題の正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力レベルの平均は、国語が4レベル、算数が4レベル伸びている。 ・国語、算数ともに、学力を伸ばした児童の割合は埼玉県の平均を上回っている。 ・主体的・対話的で深い学びの実施や学習方略、非認知能力共に学年を追う毎に向上し、埼玉県と比較しても高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語「書くこと」と「読むこと」の領域において、2年生から6年生までの全ての学年で、正答率が全国を上回った。3年生の知識及び技能に課題がある。 ・算数では、2年生と4年生が全ての領域において、正答率が全国を上回った。3年生の図形に課題がある。

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
<ul style="list-style-type: none"> ○基礎・基本の定着 ○体験活動を通じた知識・技能の習得 	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な学習事項を応用力 ○自分の意見を正しく相手に伝える力 	<ul style="list-style-type: none"> ○より良く判断し、主体的に学ぶ姿勢

学力向上のための授業改善

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
<ul style="list-style-type: none"> ○明確な学習課題の設定 ○少人数指導の工夫・改善 ○家庭と協力した学習 ○体験活動を通じた学習 ○横断的・往還的な学び 	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎・基本を活用する場面の意図的な設定 ○協働的な学習形態を取り入れた、深い学びの推進 ○目的意識をもたせた課題提示とそれを解決するための表現の工夫 ○どの教科でも自分の考えを表現する場面を設定 	<ul style="list-style-type: none"> ○教育課程の工夫・改善 ○学習規律の確立を図る取組 ○見通しをもたせ、学習を振り返る時間の設定 ○自己評価シートの工夫・改善 ○「大石北小授業のポイント」による授業改善の視点の共有 ○ICTを活用した個別最適な学習

本校の特色ある取組

- 業前活動の朝読書で読書活動の推進をしている。
- 業前活動に国語・算数タイムを取り入れ、習熟が必要な学習を繰り返し行い、学習内容の定着を図っている。

家庭教育との連携

- くすどりプリント（本校独自の学習プリント）を活用した自主学習の推進。
- google site「北小ポータル」を使った学びの支援。

1 学力調査結果の概要

(1) 上尾市立小・中学校学力調査(令和3年12月実施)

2年(令和4年度3年)【国語】

項目	項目	
考察	・「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の項目では、すべて全国平均を上回っていた。 ・「知識及び技能」の項目は全国平均を下回っており、課題が残る。	
課題	(課題) ・主語・述語や片仮名で書く言葉を選ぶことができていない。 ・漢字の書き「頭」が書けていない。	(要因分析) ・文法事項を繰り返し指導できていないため、定着していない。 ・画数の多い漢字を正しく覚えていない。

2年(令和4年度3年)【算数】

項目	項目	
考察	・「数と計算」「図形」「測定」「データの活用」全ての領域で全国平均を上回ったが、「データの活用」の正答率は、他と比べるとやや低い。	
課題	(課題) ・単位換算がしっかりと理解できていない。 ・図形では、基本事項が理解できていても、それを活用した問題を解くことができない。	(要因分析) ・異なる単位を用いて考えることに課題がある。 ・出題されるような応用問題に触れる機会がもてない。

3年(令和4年度4年)【国語】

項目	項目	
考察	・「書くこと」、「読むこと」の領域は全国平均を上回っていた。「知識及び技能」の項目は全国平均に届いていない。	
課題	(課題) ・漢字の読み書きやこそあど言葉、語句の言い切りの形等が理解できていない。	(要因分析) ・文法事項の定着に乏しい。 ・出題形式に不慣れなため。

3年(令和4年度4年)【算数】

項目	項目	
考察	・「あまりのあるわり算」や「かけ算」の正答率が低かった。 ・文章問題の正答率が低かった。 ・数量関係の領域に課題がある。	
課題	(課題) ・数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能が確実に習得していない。	(要因分析) ・出題形式に不慣れなため。 ・定着不足。

4年(令和4年度5年)【国語】

項目	項目	
考察	<ul style="list-style-type: none"> ・全領域で全国正答率を上回っていた。 ・言い換えた言葉の正答が少なかった。 	
課題	(課題) <ul style="list-style-type: none"> ・「これをさかいに」を言い換えた言葉ができなかった。 	(要因分析) <ul style="list-style-type: none"> ・語彙が少ない。 ・いろいろな言葉を使ったり読んだりする機会が少ない。

4年(令和4年度5年)【算数】

項目	項目	
考察	<ul style="list-style-type: none"> ・全領域で全国正答率を上回っていた。 ・特に小数の計算や四角形の正答率が高かった。 	
課題	(課題) <ul style="list-style-type: none"> ・見積もりの仕方を言葉で説明することがやや低かった。 	(要因分析) <ul style="list-style-type: none"> ・全員が言葉で自分の考えを説明する機会が少ない。

5年(令和4年度6年)【国語】

項目	項目	
考察	<ul style="list-style-type: none"> ・話す・聞くの項目に課題がある。 ・読解力に差がある。 	
課題	(課題) <ul style="list-style-type: none"> ・考えをまとめて書くことに課題がある。 	(要因分析) <ul style="list-style-type: none"> ・問題文を正しく理解できていない。 ・指示語が何を示しているのか理解できていない。

5年(令和4年度6年)【算数】

項目	項目	
考察	<ul style="list-style-type: none"> ・数と計算、データの活用に課題がある。 	
課題	(課題) <ul style="list-style-type: none"> ・小数のかけ算、わり算が身に付いていない。 	(要因分析) <ul style="list-style-type: none"> ・筆算の家庭を理解していない。 ・答えの見当をつけられない。

6年(令和4年度中学校1年)【国語】

項目	項目	
考察	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に全国平均。 ・読解の記述問題は、正答率が高め。 ・記述問題の無回答が多い。 	
課題	(課題) <ul style="list-style-type: none"> ・漢字のテストはできるが、意味を考えたり、意味に合った漢字を選び書くことに課題がある。 	(要因分析) <ul style="list-style-type: none"> ・時間配分ができない。 ・初見に弱い。

6年(令和4年度中学校1年)【算数】

項目	項目	
考察	<ul style="list-style-type: none"> ・全国平均に到達しない項目が多い。 ・分数・比・面積(全て)に課題がある。 	
課題	(課題) <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な問題ができない為、発展問題に到達できない。 	(要因分析) <ul style="list-style-type: none"> ・定着不足。 ・文章問題が苦手。読み取りができない。 ・初見に弱い。

(2) 全国学力・学習状況調査(令和4年4月実施)

国語

考察(問題と結果の分析)

全国、県に比べ、正答率が高かった。特に漢字や文字の大きさ、配列などを得意としている。一方、「話す・聞く」は正答率が低い。互いの立場や意図を明確にしなが、自分の考えをまとめることを苦手に行している。

課題の要因分析

話す際の工夫が様々にあることを理解し、自分の考えを分かりやすく伝えるにはどのような工夫が効果的なのかを、聞き手の立場に立って考えることができるように指導することが大切である。



各学年における重点指導事項

6年	<ul style="list-style-type: none"> 単元の目標や学習のねらいを提示し、それに対応した授業の振り返りを自分の言葉でノートに書かせ、書く活動を充実させる。 授業の中で、自分の意見を書く時間や、周りの友達と意見を交流する時間を十分に確保し、自分の考えを表現させる。 読書の習慣を身に付けさせ、様々な本の伝え方の工夫や相手意識に気付かせる。 ミニ作文や振り返りなどの課題に取り組ませ、短い時間で効果的に文章を書く経験を積ませる。
5年	<ul style="list-style-type: none"> 読書活動を充実させるほか、よみときブックなどで、初見の文章を読んで内容をとらえる経験を積ませる。 ミニ作文や振り返りなどの課題に取り組ませ、短い時間で効果的に文章を書く経験を積ませる。 授業の中で、叙述を基に自分の考えをまとめたり相手に伝えたりする時間を確保し、表現させる。
4年	<ul style="list-style-type: none"> 伝え方の工夫や相手による書き方の違いを意識付けるために、読書量を増やす。 物語文や説明文の学習では、叙述を基に内容をとらえさせ、要約する機会を設ける。 国語辞典を使って調べる習慣を身に付け、語彙を増やす。 「漢字の広場」を中心に、主語・述語を意識した短作文を作り、ノート等に書かせる。 話す、聞くの学習を行う際は活動の意図を意識させる。
3年	<ul style="list-style-type: none"> 「はじめ」「中」「おわり」を意識し、主語、述語を正しく使って、継続的に小作文に取り組ませる。 「友達に伝える」「下学年に教える」など目的を設定し、自分の考えを整理して、分かりやすく伝えたり、書いたりできるようにする。 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら読ませる。 友達と意見交流などを行い、考え方の視野を広げる。
2年	<ul style="list-style-type: none"> 「はじめ」「中」「おわり」など、文章の構成や順序に気を付けて文章を読ませる。 自分の考えを書く時間をつくる。 友達と意見交流などを行い、考え方の視野を広げる。 新出漢字を学習する際に、習った漢字の活用例をたくさん考えさせ、たくさんの言葉を知ることができるようにする。 読書に親しみ、長文を読むことに慣れたり、様々な言葉や文章表現に触れたりする機会を増やしていく。
1年	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いを、短文に書き表す活動に取り組ませる。 読書に親しむ時間をつくり、色々な本や書き方があることに興味をもたせる。 基本的な文章の仕組みについて、読み方や順序を表す言葉に注意しながら気付かせる。

算数

考察(問題と結果の分析)

全国に比べ、正答率が低かった。数と計算や図形は上回ったが、変化と関係、データの活用など長い問題文を読んで回答する問題では下回ることになった。計算問題や選択式の問題は正答率が高かったが、正三角形の構成の仕方を記述したり、数量と割合の関係をを使って考えたりしていく発展問題に課題がある。

課題の要因分析

割合の考え方を日常生活に生かす力に課題を抱えている。日常の場面に対応させながら割合について理解したり、図や式などを用いて基準量と比較量の関係を表したりすることができるように指導することが大切である。また、日常生活の問題を解決するために、目的に応じて、必要なデータを収集し、観点を決めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目して考察できるように指導することが大切である。



各学年における重点指導事項

6年	<ul style="list-style-type: none">・デジタル教材や具体物など数量の変化が視覚的に捉えられるような教具を提示する。また、体験的な学習の機会を増やす。・日常生活の中で見られる図形に注目させ、生活の中でその図がどのような性質を活用して使われているのかを考えさせる。・習熟度別の少人数による学習を行う。
5年	<ul style="list-style-type: none">・問題を解く際、図や数直線等、児童自身が問題解決に必要な手段を考え、選択できるようにさせる。そのため、その手段の方法を指導し、積み重ねていく。・授業の中で、自分の考えを書く時間や、まわりの友達と意見を交流する時間を十分に確保し、自分の解き方、考え方を順序立てて表現させる。・図形問題の学習方法としてプログラミング教育の視点も取り入れ、多角的に問題を捉えられるようにする。
4年	<ul style="list-style-type: none">・児童が解いてみたいと思うような問題場面を工夫する。・自分の考えを言葉や数字、式などを使って書く機会を設定する。・問題の意図を意識させる。・算数的用語を日常から使う。
3年	<ul style="list-style-type: none">・具体物や半具体物の操作等、数学的活動を多く取り入れ、数量の感覚を正しくつかませるために、日常的に生活の中で意識させていく。・問題解決のために必要となる算数の用語に着目させ、自分の考えをもてるようにさせる。・基本的な計算が正しく解けるよう、繰り返し練習していく。
2年	<ul style="list-style-type: none">・具体物を用いて、遊びながら数学的な考え方を養う。・各領域において、自力解決→一般化を毎単元行い、知識・技能を確実に定着できるようにする。・インプットとアウトプットを繰り返し、往還的に行うことによって、深い学びを確立する。・導入場面を工夫することにより、児童の関心・意欲を高める。・絵、図などを用いて、それらの見方を身に付けさせるとともに、理解を深める。
1年	<ul style="list-style-type: none">・具体物を用いた活動などを通して数についての感覚を身に付けさせる。・ICT機器を効果的に活用し、理解を深める。

理科

考察(問題と結果の分析)

○観察、実験などに関する技能については、実験の過程や得られた結果を適切に記録したものを選ぶことはできている。一方、自然の現象(水の状態変化)については、知識を日常生活に関連付けて理解することに引き続き課題が見られる。

課題の要因分析

エネルギー領域では、観察、実験の結果の具体的な数値や、それを分析した内容などを根拠として表現する場面を設定することが大切である。例えば、問題に対するまとめを行う際に、結果を具体的な数値として学級内で共有し、何を結論の根拠としているのかを明らかにし、より妥当な考えをつくり出す学習活動が考えられる。また地球領域では天気と気温の変化や水の状態変化など知識をより深く理解できるようにするために、問題解決を通して習得した知識を使って、日常生活との関わりの中で捉え直す場面を設定することが大切である。



各学年における重点指導事項

6年	<ul style="list-style-type: none">・デジタル教材を活用して、科学的な事象を視覚的に捉えられるようする。また、一つ一つの実験を重視し、体験的な学習の機会を増やす。・課題を見出すことについては、普段の授業の導入で具体物に触れさせ気付きを大切にし、児童の疑問や言葉から課題を作り、仮説へと結び付けていくように指導していく。・日常生活の中で見られる事象に注目させ、生活の中で科学的な事象がどのような性質を活用して使われているのかを考えさせる。・実験の結果に対して、根拠となる事柄を自分の言葉で書かせ班で共有させ理解を深めていく。
5年	<ul style="list-style-type: none">・児童にとって身近な事象をもとに課題を提示し、課題解決にむけて具体的なイメージがもてるようにする。・実験や観察の結果に対して、根拠となる事柄を自分で見つけ出して班で共有することで、理解を深めていく。・既習事項や実験、観察の結果を基に、自分の考えを簡潔に書く場面を設定する。
4年	<ul style="list-style-type: none">・児童にとって身近な事象をもとに課題を提示し、課題解決にむけて具体的なイメージがもてるようにする。・自分の考えを言葉や図などを使って友達に説明する機会を設定する。
3年	<ul style="list-style-type: none">・実験・観察の際に見方や考え方のポイントを押さえる。・自分の考えを絵や文章で表現する活動を取り入れる。・自分の考えを友達に説明する機会を設定する。

(3)埼玉県学力・学習状況調査(令和4年5月実施)

国語

学年	項目
4年	<p>考察(現状分析・実態)</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体を通して、無回答率が低く、解こうとする意欲がうかがえる。 段落を意識した文章を書くことができています。 物語文の読み取りは県平均よりも低くなっている。 常体、敬体の書き換えは身に付いている。 書く問題は解けている。
	<p>これまでの成果と今後の取組(調査結果を踏まえて)</p> <ul style="list-style-type: none"> 日記などの取組により、段落を意識した文章が書けるようになっていく。 書く能力は高いが、読み取りの能力が低い。→読み解きブック等を活用していく。
5年	<p>考察(児童の伸びの傾向・実態)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学力上位層、下位層は向上が見られるが、中間層は伸び悩んでいる。 正答率は、全体的に埼玉県の平均と同等かそれ以上である。 5学年全体の傾向として、「文の構成」(主語・述語の選択、修飾・被修飾の関係性)の力が低い。 言葉・文章の意味を理解し、適切に使用することや登場人物の心情理解の力は高い。
	<p>これまでの成果と今後の取組(調査結果を踏まえて)</p> <ul style="list-style-type: none"> 週末の日記や読書の宿題により、文章を書くこと、読むことには慣れてきている。 これらの活動は今後も取り組ませつつ、新たに小プリント等で文章構成についての問題に取り組ませる。 また、日記は文章のねじれ等に注意して指導を行う。
6年	<p>考察(児童の伸びの傾向・実態)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学力上位層、中間層、下位層どの層も向上が見られる。 正答率は、全体的に埼玉県の平均と同等である。 「話すこと・聞くこと、書くこと」の力は高いが、「読むこと」を苦手としている児童が多い。 言葉・文章の意味を理解し、正確に情報を取り出すことに課題がある。
	<p>これまでの成果と今後の取組(調査結果を踏まえて)</p> <ul style="list-style-type: none"> 未来日記や先生紹介など、子供たちが楽しく、目的意識をもちやすい書く活動を業前のショートタイムで取り組んだり、ICTを活用して画像、スライドを使いながら話す活動をしたりすることを通し、書くことや話すこと・聞くことについては慣れてきている。 書く活動の中で短い説明文や紹介文を書いたり、読む活動の中で、キーワードや要旨を押さえたりする活動を丁寧に行う。

算数

学年	項目
4年	<p>考察(現状分析・実態)</p> <ul style="list-style-type: none"> 考えを書くことができるが、計算等の無回答率が高い。 読み取る能力が低く、形の性質や文章題が苦手。
	<p>これまでの成果と今後の取組(調査結果を踏まえて)</p> <ul style="list-style-type: none"> 計算問題ができていない→計算の経験を増やしていく。 文章題の読み取りのポイントを確認しつつ、演習の時間を増やす。 既習事項を振り返る習慣を作る。単元横断的な問題をやる機会を作る。→算数タイムの活用。 数学的用語が定着していない。→繰り返し用語を指導していく。
5年	<p>考察(児童の伸びの傾向・実態)</p> <ul style="list-style-type: none"> 上位層、低位層において伸びが見られるが、中間層では伸びが小さい。 割り算において、小数点の位置や四捨五入する位置を把握できていない。 問題にあった計算の決まりを選ぶことが難しい。 表やグラフの数値の読み取りが弱い。 理由を自分の言葉で説明する力が弱い。
	<p>これまでの成果と今後の取組(調査結果を踏まえて)</p> <ul style="list-style-type: none"> 始めの方でも無解答のものがあり、問題への慣れが必要であるため、類似問題にくり返し取り組む。 他教科のグラフなどの読み取りも丁寧に、グラフから数値を読み取ったり比較したりする。 表現力をつけるために日記や振り返りなど、自分の言葉で表現する機会を増やす。 少人数の取り組みを続ける。
6年	<p>考察(児童の伸びの傾向・実態)</p> <ul style="list-style-type: none"> 上位層、低位層では伸びが見られるが、中間層での伸びが限定的である。 領域ではデータの活用に課題がある。記述式では県の平均を上回るものの選択式や短答式の問題に課題がある児童が多く、時間内に正確に計算をしていくことを苦手としている。
	<p>これまでの成果と今後の取組(調査結果を踏まえて)</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題の形式に慣らしていくために、類似問題にくり返し取り組む。 他教科のグラフなどの読み取りも丁寧に、グラフから数値を読み取ったり比較したりする。 少人数の取り組みを続ける。

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組

① 国語科 学力向上プラン

重点的に伸ばす学力

基本的な言語事項の定着を図り、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の力を育成する。

各学年の授業改善

学年	具体的な取組	取組の効果
1年	<ul style="list-style-type: none">・自分の考えを順序立てて考えたり、話したりさせる。・話し手の方を向き、話を聞く態度を身に付けさせる。・自分の思いを、短文に書き表す活動に取り組ませる。・読書に親しむ時間をつくり、色々な本があることをに気付かせる。	
2年	<ul style="list-style-type: none">・自分の考えを相手に伝わるように、順序立てて考えたり、話したりさせる。・話し手の方を向き、最後まで話を聞く態度を身に付けさせる。・自分の思いを、短文に書き表す活動に継続的に取り組ませる。・読書に親しむ時間をつくり、言語への興味・関心を高める。	
3年	<ul style="list-style-type: none">・丁寧な言葉遣いに気を付け、伝えたいことを落とさずに話すようにさせる。・話し手を見て、話し手の意図を考えて、最後まで聞くようにさせる。・「始め」「中」「終わり」を意識し、主語、述語を正しく使って、継続的に小作文に取り組ませる。・国語辞典に出てくる順番を押さえられるように、繰り返し辞書引きをさせる。・時間的な順序や事柄の順序などを考えながら読ませる。	

4 年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国語辞典を使って、語彙を増やす。 ・ 文章を読む機会を多く設ける。 ・ 物語文や説明文の学習では、叙述を基に内容をとらえさせる。 ・ 聞いたことを書く練習をする。
5 年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 読解力、語彙力を身に付けさせるために、週末読書に取り組む。 ・ 日記や振り返りなどに取り組ませ、文章を書く経験を積ませる。 ・ 授業の中で、叙述を基に自分の考えをまとめたり、相手に伝えたりする時間を確保し、表現する力を育成する。
6 年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の振り返りなどを書き、文章を書く機会を増やす。また、既習の漢字は使うように指導していく。 ・ 読書の習慣を身に付け、読解力の向上を図る。 ・ 授業の中で、自分の意見を書く時間や、周りの友達と意見を交流する時間を十分に確保し、自分の考えを表現する力を育成する。

- A・・・取組の効果が十分に見られた
- B・・・今後も課題として取り組む
- C・・・取組を見直す

② 社会科 学力向上プラン

重点的に伸ばす学力

地図や資料を効果的に活用し、調べたことや考えたことを表現する力の育成を図る。

各学年の授業改善

学年	具体的な取組	取組の効果
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が調べてみたいと思うように、課題提示の仕方を工夫する。 ・ICT機器を活用し、必要な情報を集めたり、自分の考えや学習した知識を新聞にまとめたりできるようにする。 ・自分の考えを交流する場を設け、学習に対する意欲を高める。 	
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用し、資料提示の工夫を行う。 ・資料の提示の仕方を工夫し、必要な情報を読み取り、自分の考えをもつことができるようにさせる。 ・自分の考えを交流する場を設け、学習に対する意欲を高める。 	
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が調べてみたいと思うように、資料を用意し、課題提示の仕方を工夫する。 ・資料の提示の仕方を工夫し、必要な情報を読み取らせる。 ・自分の考えをノートやワークシートに書かせ、説明・発表させる。 	
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用して理解を促す。 ・日常生活との関連も意識して、課題設定等をしていく。 ・資料を読み取る活動を取り入れ、着目点を明確にして取り組ませる。また、他の資料と比較させ、共通点や相違点、変化等について読み取り、説明させる。 ・自分の考えを表すときは、根拠をはっきりとさせて、言葉や図で説明・発表させる。また、適宜話合いの活動も設けて、自分の考えを広げられるようにする。 	

- A・・・取組の効果が十分に見られた
 B・・・今後も課題として取り組む
 C・・・取組を見直す

③ 算数科 学力向上プラン

重点的に伸ばす学力

知識・技能の確実な定着を図り、それを活用して数学的な思考力を向上させていく。

各学年の授業改善

学年	具体的な取組	取組の効果
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 導入場면을工夫することにより、児童の関心・意欲を高める。 ・ 具体物を用いた活動などを通して数についての感覚を身に付けさせる。 ・ I C T機器を効果的に活用し、理解を深める。 ・ 絵、図などを用いて、それらの見方を身に付けさせるとともに、理解を深める。 	
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 導入場면을工夫することにより、児童の関心・意欲を高める。 ・ 児童が実際に体験できるような活動を取り入れ、主体的に取り組むことができるようにする。 ・ 具体物を用いた活動などを通して数についての感覚を身に付けさせる。 ・ I C T機器を効果的に活用し、理解を深める。 ・ 絵、図などを用いて、それらの見方を身に付けさせるとともに、理解を深める。 	
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体物や半具体物の操作等、数学的活動を多く取り入れ、数量の感覚を正しくつかませる。 ・ 問題解決のために必要となる算数の用語に着目させ、自分の考えをもてるようにさせる。 ・ I C T機器を効果的に活用し、理解を深める。 ・ 三角形の性質や図形を多面的に見る力を高められるように様々な適用問題に取り組ませる。 	

4 年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体物やデジタル教材を使用して、学習内容の理解を深める。 ・ 児童が解いてみたいと思うような問題場面を工夫する。 ・ 自分の考えを言葉や数字、式などを使って書く機会を設定する。 ・ 既習事項を振り返る習慣を作り、単元横断的、学年横断的な問題に取り組む機会を作る。
5 年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計算の定着を図るため、繰り返し問題を解かせる。 ・ 数量関係や図形等の学習では、特に I C T 機器を活用させたり、具体物を活用させたりしながら、可視的で体験的な活動をおこなっていく。 ・ 問題を解く際、図や数直線等、児童自身が問題解決に必要な手段を考え、選択できるようにさせる。そのため、その手段の方法を指導し、積み重ねていく。 ・ 授業の中で、自分の意見を書く時間や周りの友達と意見を交流する時間を十分に確保し、自分の考えを表現する力を育成する。
6 年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 技能を定着させるために継続して問題を解く機会を設定する。 ・ デジタル教材や具体物など数量の変化が視覚的に捉えられるような教具を提示する。また、体験的な学習の機会を増やす。 ・ 日常生活の中で見られる図形に注目させ、生活の中でその図がどのような性質を活用して使われているのかを考えさせる。

- A・・・取組の効果が十分に見られた
- B・・・今後も課題として取り組む
- C・・・取組を見直す

④ 理 科 学 力 向 上 プ ラ ン

重点的に伸ばす学力

基礎的・基本的な知識・技能の定着と科学的な思考力や表現力の育成を図る。

各学年の授業改善

学 年	具体的な取組	取組の効果
3 年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童に課題意識をもたせ、学習活動の過程を意識させる。 ・ 観察、実験の際に見方や考え方のポイントを押さえ、自分の考えを文章や絵で表現する活動を取り入れる。 ・ I C T 機器を効果的に活用し、理解を深める。 	
4 年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問題や課題を解決するための手立てや方法など、児童に課題意識をもたせ、学習活動の過程を意識させる。 ・ 観察、実験の際に見方や考え方のポイントを押さえ、自分の考えを文章や絵で表現する活動を取り入れる。 ・ I C T 機器を含め、様々な道具を活用し、自然の事物・現象について違いを発見する楽しさを味わわせる。 	
5 年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観察や実験では予想とその根拠についてノートに書き、結果から分かることを自分の言葉で考察として書かせる。 ・ 実験道具、I C T 機器を活用し、身の回りの現象の変化とその要因を関連付けさせる。 	
6 年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実験前にたくさんの事象を経験させ、児童の疑問から問題に発展させるようにする。 ・ 各実験を行う前に、比較すべきことを確認し、条件制御の必要性について考える時間を取り入れる。 ・ 実験結果を予想し、その根拠について考える時間を取り入れる。 ・ 実験結果から読み取ったことを言葉や文章、絵で表現し、まとめる活動を取り入れる。 ・ I C T 機器を含め様々な教材・教具を活用し、科学的事象を体感的に理解させる。 	

A・・・取組の効果が十分に見られた

B・・・今後も課題として取り組む

C・・・取組を見直す

⑤ 他教科の授業改善

○生活科

1年	<p>《身に付けさせる学力》 人との関わりを通して、児童自身が自分自身の成長を振り返り、発表する力を育む。</p> <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none">・ 観察や活動の視点を示し、振り返ったり気づきを交流したりする場を設定する。・ 感じたり気付いたりしたことを、言葉、絵などで表現できるようにする。・ 人と関わり合いながら、試行錯誤を繰り返し、新たな発見をしたり気付いたりさせる。
2年	<p>《身に付けさせる学力》 具体的な活動や体験を通して気付いたことなどについて多様に表現することができるようにする。</p> <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none">・ 観察や活動の視点を示し、振り返ったり気づきを交流したりする場を設定する。・ 感じたり気付いたりしたことを、言葉、絵などで表現できるようにする。・ 体験的な活動を通して、試行錯誤を繰り返し、新たな発見をしたり気付いたりさせる。

○音楽科

1年	<p>《身に付けさせる学力》 楽しく音楽にかかわり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら音楽に親しみ、音楽表現に必要な歌唱・器楽・音楽づくりの技能を身に付けるようにする。</p> <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none">・ 曲想や拍の流れを感じ取り、楽しく身体表現をする。・ 拍の流れにのって、リズム遊びを楽しむ。・ 様々な歌唱や曲を聴かせ、音楽に対する視野を広げる。
----	--

2年	<p>《身に付けさせる学力》 楽しく音楽にかかわり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら音楽に親しみ、音楽表現に必要な歌唱・器楽・音楽づくりの技能を身に付け、豊かな情操を培うことができるようにする。</p> <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 曲想や拍の流れを感じ取り、楽しく身体表現をする。 ・ 拍の流れにのって、リズム遊びを楽しむ。 ・ 様々な歌唱や曲を聴かせ、音楽に対する視野を広げる。
3年	<p>《身に付けさせる学力》 進んで音楽にかかわり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら音楽に親しみ、基礎的な表現の能力を育む。</p> <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体全体で反応するなど、夢中になって取り組む活動を工夫し、表現の能力を楽しく身に付けさせ、音楽表現の楽しさに気付くようにする。
4年	<p>《身に付けさせる学力》 進んで音楽にかかわり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら音楽に親しみ、音楽表現に必要な歌唱、器楽、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。</p> <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歌詞の内容や、曲想に注目して曲の特徴を捉えた表現を工夫させる。 ・ 友達と一緒に、歌唱や器楽演奏をする楽しさを味わわせる。
5年	<p>《身に付けさせる学力》 主体的に音楽にかかわり、協働して音楽活動をする楽しさを味わいながら音楽に親しみ、音楽表現に必要な歌唱、器楽、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。</p> <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歌詞の内容や、曲想に注目して曲の特徴を捉えた表現を工夫させる。 ・ 反復学習を行い、ハ長調の視唱・視奏の技能を身に付けさせる。
6年	<p>《身に付けさせる学力》 主体的に音楽にかかわり、協働して音楽活動をする楽しさを味わいながら音楽に親しみ、音楽表現に必要な歌唱、器楽、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。</p> <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歌詞の内容や、曲想に注目して曲の特徴を捉えた表現を工夫させる。 ・ 反復学習を行い、ハ長調イ短調の視唱・視奏の技能を身に付けさせる。 ・ 変声期等の児童に配慮する。

○図画工作科

1年	<p>《身に付けさせる学力》 造形遊びを楽しみ、手や体全体の感覚などを働かせ、つくり出す喜びを味わうとともに、楽しんで制作する態度を育成する。</p> <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な材料を用いたり、扱いやすい用具を使ったりして、十分に慣れさせる。 ・児童が思い付いたことや方法を、すぐに試することができる環境を用意する。
2年	<p>《身に付けさせる学力》 造形遊びを楽しみ、手や体全体の感覚などを働かせ、つくり出す喜びを味わうとともに、楽しんで制作する態度を育成する。</p> <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な材料を用いたり、扱いやすい用具を使ったりして、十分に慣れさせる。 ・児童が思い付いたことや方法を、すぐに試することができる環境を用意する。 ・他教科で学習したことと関連付け、横断的な指導を行う。
3年	<p>《身に付けさせる学力》 造形活動を楽しみ、豊かな発想で、体全体の感覚や技能などを働かせながら表現することへの喜びを味わうとともに、楽しんで制作する態度を育成する。</p> <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対話的な学習活動を取り入れ、試行錯誤しながら作品づくりをさせる。 ・手本となる作品を提示し、手順を詳しく説明することで、豊かな発想につなげる。
4年	<p>《身に付けさせる学力》 材料などから豊かな発想をし、手や体全体を十分に働かせ、表し方を工夫し、造形的な能力を伸ばすようにする。</p> <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次時の予告と準備を確実にを行う。 ・ICT端末の活用や実演により、児童の興味・関心を喚起させる。 ・本時の学習の流れを明確化する。 ・鑑賞を通し、友だちの作品の良さをとらえ、表現力を広げられるようにする。
5年	<p>《身に付けさせる学力》 新しい道具や技法の習熟を行い、材料・用具の工夫や言語活動の充実を図り、創造的に作ったり、表したりする技能を身に付けさせる。</p> <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデリングを行い、技法や表現力の向上を図る。

6年	<p>《身に付けさせる学力》 材料などの特徴をとらえ、想像力を働かせて発想し、主題の表し方を構想するとともに、様々な表し方を工夫し、造形的な能力を高めるようにする。</p> <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ I C T 機器等を活用して、意欲を高めたり、やり方を具体的に示したりすることで、活動に取り組みやすくする。 ・ 既習の技法（にじみ、ぼかし等）や新しい技法を実際に示していくことで、児童の表現の幅が広がるように工夫する。 ・ 適宜、話し合い活動を設けることにより、表したいものへのイメージを膨らませたり、様々な表現の仕方があることに気付かせたりする。
<h2>○家庭科</h2>	
5年	<p>《身に付けさせる学力》 日常場面と関連させて、実践的・体験的な活動をとおして、基礎的・基本的な知識や技能を身に付けさせる。</p> <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常生活の場面から課題に気付かせて、話し合い活動等をとおして、解決に向かうようにする。 ・ 実習や製作の活動では、安全指導をするとともに、基本的な技能や用語の定着を図る。 ・ I C T 機器を活用して、調理や製作場面の具体的なイメージをもたせて、活動への意欲を高めたり、活動しやすくしたりする。
6年	<p>《身に付けさせる学力》 衣食住など生活の様々な言葉について、自分の生活経験と関連付けながら解決方法を考えて、実践活動を評価・振り返る力を身に付けさせる。</p> <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 習得した知識や技能を実生活に結びつけて、実践的・体験的活動に取り組ませる。 ・ 生活の中から問題を見い出して自ら課題を設定し、課題解決に向けて自分の考えを構想したり、表現したりする活動を実践させる。

○体育科

1年	<p>《身に付けさせる学力》 運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、基本的な動きを身に付け、体力を高める。</p> <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none">・活動の仕方や競争のルール等を児童の実態に応じて工夫し、児童が運動を楽しめるようにする。・体の基本的な動きや各種の運動の基礎となる動きを身に付けさせ、児童が運動を楽しく、力いっぱい活動できるようにする。
2年	<p>《身に付けさせる学力》 運動遊びの楽しさに触れ基本的な動きを身に付けたり、考えたことを伝えたりする力を養う。また、決まりを守り誰とでも仲良く運動する態度を養う。</p> <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none">・活動の仕方や競争のルール等を児童の実態に応じて工夫し、児童が運動を楽しめるようにする。・体の基本的な動きや各種の運動の基礎となる動きを身に付けさせ、児童が運動を楽しく、力いっぱい活動できるようにする。
3年	<p>《身に付けさせる学力》 運動の楽しさに触れ、進んで体を動かすことで体力、運動技能、行い方の工夫や考えを伝える力を高める。</p> <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none">・慣れの運動を十分に行い、基礎的な動きを身に付けられるようにする。・場の設定を工夫し、活動時間を確保する。
4年	<p>《身に付けさせる学力》 活動を工夫して各種の運動を楽しくできるようにするとともに、その基本的な動きや技能を身に付け、体力を高める。</p> <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none">・活動時間の確保をする（30分）。・場の工夫や課題を明確化することで、児童が意欲的に取り組めるようにする。

5年	<p>《身に付けさせる学力》 健康な生活及び体の発育・発達について理解できるようにし、身近な生活において健康で安全な生活を営む資質や能力を育てる。</p> <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場の工夫や課題の明確化、評価の一体化を行い、児童の意欲を喚起する。 ・運動の楽しさを味わわせ、休み時間等の生活化を意識した授業を展開する。
6年	<p>《身に付けさせる学力》 活動を工夫して各種の運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、その特性に応じた基本的な技能を身に付け、体力を高める。</p> <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材・教具を活用することで、指示や説明を必要最低限に絞り、十分な運動量を確保する。 ・単元・授業のねらいを確認し、本時に必要な運動の技能について児童が見通しをもって主体的に取り組めるようにする。 ・振り返りを行い、自己の課題を見付けさせる。
<p>○英語活動・外国語活動・外国語科</p>	
1年	<p>《身に付けさせる学力》 外国語による聞くこと・話すこの言語活動を通して、相手に話しかける力を育成する。</p> <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に合わせてゲームや歌を設定し、楽しい雰囲気で行う。 ・Class Room English を実施し、外国語に慣れ親しませる。
2年	<p>《身に付けさせる学力》 外国語による聞くこと・話すことの言語活動を楽しみ、進んで参加しようとする態度を育成する。</p> <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に合わせてゲームや歌を設定し、楽しい雰囲気で行う。 ・Class Room English を実施し、外国語に慣れ親しませる。
3年	<p>《身に付けさせる学力》 外国語による聞くこと・話すことの言語活動を通して、自分から進んで話しかける力を育成する。</p> <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に合わせてゲームや歌を設定し、楽しい雰囲気で行う。 ・Class Room English を実施し、外国語に慣れ親しませる。

4年	<p>《身に付けさせる学力》 外国語を通して、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ。</p> <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 単位時間の指導の充実を図る。 ・ Class Room English の実施により児童及び教師の意識改革を図る。 ・ ふり返りカードの活用により、自己評価ができるように指導する。
5年	<p>《身に付けさせる学力》 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。</p> <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 単位時間の指導の充実を図る。 ・ Class Room English の実施により児童及び教師の意識改革を図る。 ・ ふり返りカードの活用により、自己評価をし、次時への見通しをもたせる。
6年	<p>《身に付けさせる学力》 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。</p> <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アルファベットの大文字や小文字を覚え、自分の名前などを書く活動を繰り返し行い、書く力を向上させる。 ・ 4 線黒板を使い、線を意識して正しくアルファベットを覚えさせる。 ・ まわりの友達とペアやグループで簡単な会話をする時間を設け、楽しみながらやりとりに慣れさせる。 ・ フラッシュカードやチャンツなどを活用して繰り返し練習を行い、視覚的・聴覚的に単語や発音を覚えさせる。
<p>○特別の教科 道徳</p>	
1年	<p>《身に付けさせる力》 基本的な生活習慣を身に付けるとともに、自他を大切にする心を育てる。</p> <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の感じたことや思ったことなどを自由に発表し合い、友達のいろいろな考え方に気付かせる。 ・ 自分自身を振り返り、自分の良さや自分ができないことなどに気付き、これからの自分について考えさせる。 ・ 効果的な教材の提示や場の工夫をする。

2年	<p>《身に付けさせる学力》 基本的な生活習慣を身に付けるとともに、自他を大切にすることを育てる。</p> <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の感じたことや思ったことなどを自由に発表し合い、友達のいろいろな考え方に気付かせる。 ・自分自身を振り返り、自分のよさや自分ができないことなどに気づき、これからの自分について考えさせる。 ・効果的な教材の提示や場の工夫をする。
3年	<p>《身に付けさせる学力》 基本的な生活習慣を身に付けるとともに、自他を大切にすることを育て、実践する力を養う。</p> <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の意見を尊重し、どのような考えも安心して発表できる学級の雰囲気をつくる。 ・道徳的な価値を実感させ、生活で実践することができるよう自分を見つめさせる。
4年	<p>《身に付けさせる力》 集団や社会の決まりを守る心を育てるとともに、自他の生命を尊重し、命を大切にすることを養う。</p> <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人のよさを認め合い、学級の一員として、共に生きる心を育てる。 ・道徳的な価値を実感させ、生活で実践することができるよう自分を見つめさせる。
5年	<p>《身に付けさせる力》 集団や社会の決まりを守り、身近な人々と協力し助け合う心を育てるとともに、自他の生命を尊重し、命を大切にすることを養う。</p> <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の意見を尊重し、どのような考えも安心して発表できる学級の雰囲気をつくる。 ・道徳的な価値を実感させ、生活で実践することができるよう自分を見つめさせる。

6 年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <p>相手の気持ちを考え行動する態度を育てるとともに、集団としての役割と責任を果たし、その経験を生かしながら、自分の夢や希望をもととする態度を育てる。多面的・多角的に考える学習を通して、違いを認め合う社会を構築する。</p> <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりのよさを認め合い、学級の一員として共に生きる心を育てる。 ・道徳的な価値を実感させ、生活で実践することができるよう自分を見つめさせる。 ・話し合いを通して、互いの違いを確認し、承認する。
--------	---

(2) 教育活動全体を通じた取組

本校の特色ある取組	
① P T A 活動 学校応援団	<ul style="list-style-type: none"> (1) 毎月初めに保護者・教職員が校門に立ち、あいさつ運動を行う。 (2) ビオトープの保全活動を定期的に行う。 (3) さつまいも植えや収穫、ミシンボランティア、スズムシ飼育等学習や体験活動の補助を行っている。 (4) 理科室前に生体展示、パネル展示等の「博物館コーナー」を設置し、週2～3回えさやりや水替えの協力を行っている。 (5) 地域への情報発信、啓蒙活動をコーディネーターに行っている。
② 特別活動の取組	<ul style="list-style-type: none"> (1) 児童会による校内あいさつ運動を実施している。 (2) 希望者によるあいさつボランティアの実施をしている。
③ 道徳科の取組	<ul style="list-style-type: none"> (1) 授業参観で各学級1回授業を公開する。 (2) I C T 機器を活用した授業を行う。 (3) 道徳だよりを各学期に一回家庭に配付をする。 (4) 各学年で道徳資料を単元ごとに整理をしている。 (5) 「匠の技」授業の取組などに参加し、校内研修を行う。
④ 外国語活動の 取組	<ul style="list-style-type: none"> (1) ポートフォリオを活用して、指導・評価の工夫をする。 (2) 学級担任（教科担任）と A L T が協力して授業を行う。 (3) 給食の献立を A L T が放送する等、非集合型でも英語に親しめる取組を進める。
⑤ 基礎・基本の徹底	<ul style="list-style-type: none"> (1) 業前活動に国語・算数タイムを取り入れ、習熟が必要な学習を繰り返し行い、学習内容の定着を図る。 (2) 業前活動の朝読書で読書活動の推進を図る。

家庭教育との連携

① 家庭学習の充実	(1) くすどりプリントの活用を学校側から保護者に啓発するとともに、教師による継続的な指導により活用率を向上させ、習熟を図る。 (2) 各学年で家庭学習カードを活用し、家庭学習の充実を図る。 (3) google site を使って学習コンテンツ集「北小ポータル」を作成。e board とともに ICT を活用して学校教育と家庭学習の連携を図る。
② 学校公開	(1) 授業参観、学校公開等で学校での学習状況や児童の活動を家庭に把握していただく。また、google forms を活用してアンケート調査を行い、それを検証することで学校教育活動の改善を図る。 (2) 学習準備、家庭学習・早寝早起き朝ごはん等の家庭の協力を得る。
③ 学校メール配信・ 学校ホームページ活用	(1) 適宜、学校配信メール（さくら連絡網）で学校情報・教育情報、不審者情報等を配信する。 (2) 行事や授業の様子を学校ホームページに公開し、情報を発信するとともに、家庭の協力を得る。